

# 瑞医

世界に羽ばたくMEDIPORT

2026.6. VOL.59

contents

極 社会貢献  
Social contribution

人 時の人  
People in the news

技 研究  
Current topics in research

和 お知らせ  
Information

## 学長着任のご挨拶

本年4月1日より副理事長・学長を拝命しました大原弘隆でございます。先人の皆さまのご尽力により、今日の7学部8研究科の総合大学にまで発展してきた名古屋市立大学の歴史の重みに思いを馳せ、その責任の大きさを痛感しております。郡 健二郎理事長のご指導の下、もとより微力ではありますが、本学のさらなる発展のため全力を尽くしてまいります。

皆さまご存じのように、名市大は東海地区で唯一の医学・薬学・看護学・リハビリテーション学からなる医療系の教育・研究機関を有する大学です。2025年4月には国公立大学では最大規模（2,223床）の6附属病院体制となり、2026年6月には全国最大級の救急災害医療センターが開棟しました。看護学専攻では2027年4月に蒲郡キャンパスが加わり、入学定員を国公立大学では最多の合計210名に拡充する予定です。安心・安全な高度急性期から回復期・慢性期医療及び高度救急・災害医療を広く市民に提供するとともに、先進的な研究成果を世界に発信し、優秀な医療人材を輩出することにより、名市大が市民の皆さまに愛され続けることを願っています。

一方、本学は2014年に本学の基本理念や行動指針となる「大学憲章」を制定するとともに、「名市大未来プラン」において4つのビジョンを掲げ、改革を進めてまいりました。2021年には「名市大未来プラン2021」を策定し、2026年2月には開学100周年を迎える2050年を見据え、本学のめざす未来像として『ずっとイチバン名市大』をキーワードとした「わたしたちの未来2050」をまとめました。現在、その実現に向けた具体的な行動計画として「名市大未来プラン2026」及び「名市大病院群未来プラン2026」の策定を進めているところです。皆さまには、ぜひ活発なご議論・ご意見を賜りますようお願い申し上げます。

本学の基本理念を大切に、常に長期的かつ戦略的な視点を持ちながら、本学の教育・研究・医療の発展に努めてまいります。皆さまにおかれましては、今後も温かいご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



文責：大原 弘隆

### “瑞医の由来”

「瑞医(ずいい)」という言葉は、瑞穂で育った医師が心の支えとなる名市大、「瑞」にはめでたいことという意味があるので新しい門出の広報誌にと考えました。新しく発足した同窓会と一体となって歩むことを目的に、その名前「瑞友会」と相呼応しています。サブタイトルの「MEDIPORT」は、「Medical」と「Port(港・空港)」をかけた造語。名市大を最新情報を発信する拠点とし、卒業生が社会・世界へ出航し、またいつでも戻ってこられる港であるようにとの願いをこめています。

## 西部医療センター新病院長のあいさつ

このたび、名古屋市立大学医学部附属西部医療センターの病院長を拝命いたしました森田明理です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

西部医療センターは、小児・周産期医療、がん医療、脊椎疾患医療などを柱とし、地域の皆さまに高度で安全・安心な医療を提供してまいりました。さらに近年では、陽子線治療をはじめとする先進的ながん医療の充実に加え、急性期医療の体制強化にも取り組んでおります。

今後は、地域の中核病院としての役割をより一層発揮するとともに、大学附属病院として教育・研究の推進にも力を入れてまいります。医療の高度化・専門化が進む中で、単一の病院だけで完結するのではなく、市大病院やその他の急性期医療機関、さらには地域の医療機関との連携を深め、それぞれの強みを活かした医療体制の構築が重要と考えております。

また、医療を支えるのは「人」であり、多職種が協働し、安心して力を発揮できる環境づくりにも注力してまいります。職員一人ひとりが誇りを持って働き、その力が患者さんに還元される、そんな病院を目指してまいります。

さらに、デジタル技術の活用や診療体制の見直しを通じて、医療の質と効率の向上を図り、持続可能で質の高い医療提供体制の構築にも取り組んでまいります。

西部医療センターは、地域とともに歩み、信頼される医療を提供し続ける存在でありたいと考えております。今後ともご理解とご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

文責：西部医療センター 病院長 森田 明理



## 名古屋市立大学 開学75周年記念式典を開催しました

2026年2月15日（日曜日）、名古屋マリオットアソシアホテルにて、「名古屋市立大学 開学75周年記念式典」を開催いたしました。

式典には、大学の関係者はもちろん、名古屋市をはじめ、国や県、協定を結んでいる自治体や病院、他大学からも多くの方にご出席をいただき、日頃より本学を支えていただいている皆さまとともに盛大な式典を執り行うことができました。名市大未来フォーラムと題したプログラムでは、救急災害医療センターの開棟をはじめ、本学が現在・この先の未来に向けて取り組んでいる事業の紹介や本学の目指すべき未来像「わたしたちの未来2050」を発表した他、文部科学省の合田哲雄高等教育局長より「2040年の社会・地域・デモクラシーと高等教育」をテーマにご講演をいただき、本学が教育機関として果たしていくべき役割について考える機会となりました。

また、開学75周年記念事業の一環として、名古屋市立大学交流会及び名古屋市立大学後援会からの支援を基に、「学生研究ステップアップ基金」を創設し、幅広く市民の方々からのご寄附を募集しております。

「学生研究ステップアップ基金」へのご寄附は、将来研究者を目指す人材の育成を図るため、学生が行う研究等を支援する事業に充当します。

皆さまのあたたかなご支援よろしくお願い申し上げます。



名古屋市立大学 開学75周年記念式典の様子



学生研究ステップアップ基金の  
詳細はこちらから！

文責：総務部 総務課 経営企画部 企画課

## 「救急災害医療センター」がスタートしました

令和8年（2026年）6月1日、名古屋市立大学病院に「救急災害医療センター」が開棟いたしました。

本センターは、高度な急性期医療の実践と、次代を担うあらゆる医療人を多職種協働の環境下で育成する、本学の新たな中核拠点です。

臨床面では、ハイブリッドER、心臓・脳血管カテーテル室、先進手術室、集中治療部門を活用し、迅速かつ高度な急性期治療を24時間体制で提供します。また、本センターは災害対応の要として、大災害時にも平時と同様の医療を提供できる体制を整えています。センター内には周産期部門、透析部門、手術部門などが集約されており、災害発生時においても、命に関わる高度医療を途絶えさせることなく継続することが可能です。

本センターの最大の特長は、医師のみならず、看護師、薬剤師、管理栄養士、放射線技師、リハビリ関連技士、臨床検査技師、臨床工学技士、救急救命士などの多岐にわたる医療スタッフと、それを志す学生に向けた実践的な研修環境が、格段に充実した点にあります。10室を備え、日本最大級の広さを誇るERは、一次から三次救急までの幅広い疾患に対応する場であり、多職種が多くの学びを得られる最高のフィールドです。

質の高い急性期診療の提供を推進するとともに、チーム医療を担う優れた医療人の育成に、センタースタッフ一同、全力で取り組んでまいります。新たにスタートを切った救急災害医療センターを、今後ともどうぞ温かく支えていただきますようお願い申し上げます。

文責：名市大病院副病院長、麻酔科部長、集中治療部部長、救急災害医療センター長  
祖父江 和哉



## 本学医学部生とみらい光生病院職員が救命活動により消防長感謝状を贈呈されました

令和7年12月中旬、JR尾張一宮駅ホームで倒れた男性をAEDを用いて救命したことにより、宇佐美諄さん（当時：医学部5年生）ほか2名とともに、一宮市消防長から感謝状をいただきました。

手術痕の発見等の迅速かつ的確な観察力、一度目の電気ショックでは回復せず周囲が諦めかけていた中でも心臓マッサージを継続して蘇生に繋げた宇佐美さんの果敢な行動力は、BRJをはじめとする本学の実践的な医学教育により培われたものと確信しています。

私も、東部医療センター救急科の三浦敏靖先生によるBLS講習を受講していたため、微力ながら自然に協力することができました。

当該男性からは後遺症も全く残らず退院できたとの嬉しいお電話をいただき、救急災害医療センター開棟を間近に控えた開学75周年における本学学生・職員による社会貢献活動記録に残せたことを大変光栄に思います。

文責：みらい光生病院管理課長（現 名市大病院管理課長） 釜本 英樹



左：宇佐美さん 右：筆者

## 新任教授紹介

### 心臓血管外科学 前川 厚生 主任教授

このたび心臓血管外科講座主任教授に着任した前川厚生です。心臓大血管手術はその特性上緊急手術が多く、これまで執刀した手術の約1/3は、冠動脈バイパス術をはじめとする虚血性心疾患や大動脈解離などの緊急・準緊急手術となります。この6月には、当院の敷地内にある巨大な救急災害病棟が稼働します。一刻を争う急病患者さんに、病院一丸となったハートチームの一員として貢献することができるよう、医療レベルのさらなる高みを目指していきたく思います。また、私はこれまで僧帽弁閉鎖不全症の弁形成術や大動脈弁疾患などの弁膜症に対する低侵襲心臓手術（MICSと呼ばれています）やロボット手術の実施と研究に力を注いできました。今後当院でも積極的に導入してまいりたいと思います。生命にかかわる一大事である心臓病に見舞われた患者さんご本人とご家族の、明るい未来のために力を尽くす所存です。これまで同様、ご指導ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



前川 厚生 主任教授

## 新任教授紹介

### 名古屋市立大学大学院看護学研究科 性生殖看護学・助産学 佐藤 剛 教授

2026年4月1日付で、名古屋市立大学大学院看護学研究科 性生殖看護学・助産学分野教授を拝命いたしました、佐藤 剛と申します。謹んでご挨拶申し上げます。私は1990年に名古屋市立大学医学部を卒業後、名市大病院での研修を経て、一宮市立市民病院において産婦人科一般臨床の研鑽を積みました。その後、名古屋市立大学産科婦人科学教室に戻り、主として生殖医療の診療・研究および後進の指導に従事してまいりました。特に、ヒト卵子・胚の遺伝学的解析とその臨床応用に取り組み、日本産科婦人科学会のPGT-A特別臨床研究にも初期段階から参画してまいりました。今後は、これまでの経験を生かし、看護学研究科において優れた医療者・研究者の育成と、研究科横断的な連携研究の推進に尽力してまいります。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



佐藤 剛 教授

## 新任教授紹介

### 医学部保健医療学科リハビリテーション学専攻 飯塚 照史 教授

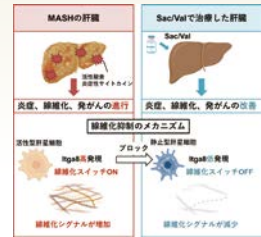
名古屋市立大学医学部保健医療学科リハビリテーション学専攻作業療法学コース教授に着任いたしました飯塚照史と申します。専門分野は手のリハビリテーションで、主に交通事故や労働災害による上肢外傷に対するハンドセラピーを経験してきました。手は自分の思い通りに動く機能性のみならず、感情や意思を伝えるコミュニケーション手段でもあります。さらに、近年では全身のバランスに対する影響もあることがわかってきました。自身の研究成果を基に対象者の個別性を尊重しながら、獲得されたパフォーマンスの永続性に焦点をあてた治療手技の開発と実装、さらに名古屋市および本邦の健康増進に資する提案を目指します。皆様のご指導ご鞭撻を頂戴し、理想を高く持ちつつも謙虚に自身を見つめながら精進をいたします。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



飯塚 照史 教授

## 心不全薬「アンジオテンシン受容体ネプリライシン阻害薬」が肝臓病「MASH」の線維化・発がんを抑制 —線維化の司令塔「Itga8」を標的とする新機序を解明—

肥満や糖尿病などの代謝異常を背景に増加するMASHは、進行すると肝硬変や肝細胞がんに至る重要な肝疾患です。本研究では、心不全・高血圧治療薬として用いられているアンジオテンシン受容体ネプリライシン阻害薬 (ARNI) サクビトリル/バルサルタン (Sac/Val) に着目し、MASHモデルラットでその効果を検証しました。その結果、Sac/Valはバルサルタン単独投与より、肝臓の炎症、線維化、前がん病変を有意に抑制しました。さらに網羅的遺伝子解析から、線維化に関与する分子Itga8を同定し、Sac/ValがItga8発現を抑えることで肝星細胞の線維化促進シグナルを抑制する可能性を示しました。既存薬の新たな適応可能性を示す成果として、今後のMASH研究の進展に寄与することが期待されます。(Hepatology Res. PMID: 41354061)

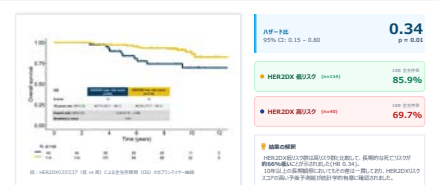


文責：実験病態病理学分野 准教授 内木 綾

## 高齢HER2陽性早期乳がんでHER2DXが長期予後を予測 —RESPECT試験トランスレーショナル解析 (Trans-RESPECT) —

高齢 (70~80歳) HER2陽性早期乳がんでは化学療法の副作用リスクが高く、トラスツマブへの化学療法上乗せ適応の見極めが重要です。本研究 (Trans-RESPECT) は、第III相試験RESPECT参加者154例を対象にHER2DX (多遺伝子アッセイ) の有用性を検討しました。低リスク群 (74.0%) は高リスク群に比べ10年全生存率が有意に良好で (85.9% vs 69.7%, HR 0.34, p=0.01)、多変量解析でもOSと独立して関連しました。さらにpCRスコア高値群で化学療法上乗せの有益性が示唆され、高齢患者の治療最適化に資する知見が得られました。本成果はNature Communicationsに掲載されました。

長期生存率：HER2DXリスク群による層別化



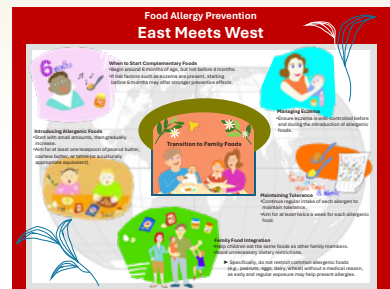
文責：乳腺外科学分野 臨床研究戦略部 先端医療・臨床研究開発学分野 特任講師 能澤 一樹

図：HER2DXリスクスコア (低vs高) による全生存期間 (OS) の Kaplan-Meier 曲線

掲載誌：Nature Communications DOI: 10.1038/s41467-025-65599-x

## 二重抗原暴露理論に基づき、早期食物摂取開始と湿疹 (アトピー性皮膚炎) の早期治療により食物アレルギー予防が可能に。

二重抗原暴露仮説は、炎症のある皮膚から侵入して感作した抗原食物の摂取開始が遅れることで経口免疫寛容の誘導が障害されて食物アレルギーが発症するというものです。英国のLEAP試験 (ピーナツ)、日本のPETIT試験 (鶏卵) により早期摂取の有効性が実証され、日本のPACI試験 (鶏卵) により、乳児期早期の湿疹治療の有効性が実証されたことから、二重抗原暴露仮説は理論となりましたが、洋の東西で食文化が異なることから、各国の事情に応じた抗原食物の摂取開始方法を考慮する必要があります。湿疹を速やかに治療し、同居する家族が食べている食物を乳児にも早く (生後4か月~6ヶ月頃) 導入することで経口免疫寛容を誘導し、食物アレルギーを予防することを、英国、米国、豪州のエキスパートらとClinical Commentary Reviewとして発表しました。



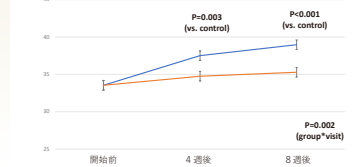
(J Allergy Clin Immunol Pract PMID: 41187903)

文責：環境労働衛生学 特任教授 大矢 幸弘

## 摂食症 (摂食障害) 遠隔家族サポートプログラムの開発と普及

摂食症は患者さんご本人が辛い思いをするのはもちろんのことですが、ご家族 (特に母親) も非常に辛い状況におかれており、精神的健康も悪い状態です。私たちは、このような親に対して、サポートプログラムを開発し、親の傾聴能力が向上する効果を確証しました。このプログラムでは、対人関係療法の傾聴力を取り入れ、思春期/青年期の特徴を踏まえながら、ロールプレイやストレッチングに焦点をあてたグループセラピーを通して親が対応方法の引き出しを増やしていくしくみになっています。現在は、このサポートプログラムの普及に向けて、治療者研修会を開催し、ひとりでも多くの患者さんやご家族に届くように尽力しています。

図1 傾聴態度の改善状況 (Active Listening Attitude Scaleで評価)



文責：大学院看護学研究科 教授 香月 富士日

## GRADcenterについて

大学院支援組織「GRADcenter」は、大学院教育の質向上、研究力の強化、そして博士人材の多様なキャリア形成支援を目的として、令和7年9月に開設しました。医学研究科にとどまらず、学内の各部局に分散していた大学院関連の支援機能を横断的に統合・強化し、より体系的かつ実効性の高い支援体制を構築しています。

本センターでは、専門性の深化に加え、異分野連携力、課題解決力、発信力、キャリア自律といった「トランスファラブルスキル」の育成を重視し、社会や国際舞台で活躍できる博士課程人材の育成を目指します。大学院の充足率向上は重要な指標ではありますが、それはあくまで結果であり、本質的に求められるのは教育研究の「質」の向上です。

研究の高度化・複雑化が進む現代において、質の高い研究成果を継続的に生み出すためには、専門領域の深化とともに、世界的視野に立った俯瞰力と国際的研究環境の整備が不可欠です。この観点から、大学院の国際化を中長期的戦略として位置づけ、持続的な研究基盤の強化に取り組めます。

なお、名称の「GRAD」には「Graduate Researcher Advancement and Development」の意味を含め、大学院生の成長と発展を力強く支える拠点となることを目指しています。  
文責：GRADcenter事務局



センター長 高橋 智  
学長補佐（大学院支援）



副センター長 加藤 洋一  
学長補佐（大学院・医学研究）

## インドネシア・ブラウイジャヤ大学との学部間交流協定締結式を執り行いました

令和8年1月22日（木）午後3時から、医学研究科はインドネシアのブラウイジャヤ大学医学部と学部間交流協定の締結式を執り行いました。

式典には両大学の医学部長・関係者が出席し、医学教育および研究分野における協力体制の強化を確認しました。

令和2年に大学間交流協定を締結済みですが、学部間協定の締結により、医学部生/大学院生交流、若手研究者間の研究交流、教員の相互派遣などの多様な国際連携が、今後より一層深いレベルで展開されることが期待されます。

これまで築いてきた友好関係を基盤に、両大学は医学研究と人材育成の発展に寄与するべく、より実りある協働を推進してまいります。



文責：医学部事務局

## 令和7年度医師・看護師国家試験結果

第120回医師国家試験が令和8年2月7日（土）、8日（日）に、第115回看護師国家試験が令和8年2月15日（日）に実施されました。医師国家試験では新卒者86名のうち82名が合格し、合格率は95.3%でした。看護師国家試験では新卒者77名のうち、77名が合格、合格率100%となりました。

本結果は、学生の不断の努力および教員による継続的な指導の成果によるものと考えられます。今後も引き続き教育体制の充実に努めてまいります。

### 令和7年度 医師国家試験結果

第120回本学統計	受験者数	合格者数	合格率
本学（新卒）	86	82	95.3% (全国平均94.7%)
本学（既卒）	5	3	60%
本学（全体）	91	85	93.4% (全国平均91.6%)

### 令和7年度 看護師国家試験結果

第115回本学統計	受験者数	合格者数	合格率
本学（新卒）	77	77	100% (全国平均94.1%)
本学（既卒）	1	0	0%
本学（全体）	78	77	98.7% (全国平均88.3%)

文責：医学部事務局

## 医学部ホームカミングデー with ペアレンツを開催

令和8年5月2日（土）に、開学75周年記念事業の一環として「医学部ホームカミングデー with ペアレンツ」を開催しました。当日は、卒業生（瑞友会・看桜会・しらゆり会）の皆さまや在学生の保護者の方々、約400名が来場され、世代を超えた交流の場として大変賑わいました。

講演会場では、片岡医学部長より、新体制となった医学部の教育・研究・診療の現状と将来展望について詳しい紹介がありました。続いて、先進救急災害医学分野の舩越教授による講演では、最前線の救急医療の取り組みや課題について解説され、参加者にとって理解を深める貴重な機会となりました。また、医学科・看護学専攻・リハビリテーション学専攻の在学生からは、本学医学部における日々の学びや学生生活の様子が紹介されました。

さらに、令和8年6月開設予定の救急災害医療センターの内覧会も実施され、参加者は最新設備を間近に見学しながら、本学の取り組みを実感していました。

本事業は、同窓会と医学部が協働して実施する新たな試みであり、再会の喜びとともに、母校の現在と未来を共有する有意義な機会となりました。今後も開学100周年に向け、卒業生とのつながりを一層深めてまいります。



文責：医学部事務課

## 文科省・大学病院機能強化推進事業の採択について

このたび、文部科学省の「令和7年度大学病院機能強化推進事業」において、本学の取組が採択され、補助上限額5億円・補助率100%の満額査定を受けました。全国の大学からの多数の応募の中で、本学の計画の有効性と実現性が高く評価されたものです。本事業では、令和8年6月開棟予定の救急災害医療センターの機能強化を軸に、DXを活用した診療体制の高度化、医療安全の向上、業務効率化を推進します。あわせて教育・研究機能の充実を図り、次世代医療人材の育成にも寄与してまいります。今後も地域医療の中核として、質の高い医療提供に努めてまいります。

文責：医学部事務課

本学の取り組みに関するポンチ絵

## 愛知県がん診療拠点病院に指定されました／東部医療センター

令和8年4月1日付で、東部医療センターが愛知県がん診療拠点病院に指定されたことをご報告いたします。

愛知県がん診療拠点病院は、愛知県におけるがん診療の充実を図るために、厚生労働大臣が指定する「がん診療連携拠点病院」に準じる病院として、愛知県知事によって指定されます。本院のがん医療の内容、医療従事者、診療実績、設備、情報提供、相談体制、職員教育、人材育成など、さまざまな項目について審査を受け、がん診療拠点病院として求められる要件をすべて満たしているとの評価をいただき、このたびの指定取得に至りました。

当院は、救急医療を得意とする総合病院として、がんそのものに対する治療に加えて、併存疾患やがん治療に伴う合併症への対応も含め、質の高い総合的ながん診療を提供できるという強みを持っています。このような強みを最大限に活かして、患者様が安心して満足のいくがん診療を受けられるよう、病院全体として今後とも努力を続けてまいります。

文責：先進がん治療センター運営委員会 委員長 柳田 正光



### 手術説明を“手元に”—産学連携で生まれた『あなたの手術手帳』

産学共同開発アプリ「あなたの手術手帳」をリリースしました。本アプリは、当院消化器外科が中心となり企業と連携して開発されたもので、手術説明動画や同意内容を患者自身がスマートフォン等でいつでも確認・共有できる仕組みを提供します。これにより、従来は対面で一度きりになりがちであった手術説明を、患者や家族が繰り返し確認できる環境を整え、説明内容の標準化と理解の向上を図ります。また、医師の説明時間の効率化にも寄与し、働き方改革への対応にも貢献します。今後は消化器外科領域における実証を通じて有用性を検証し、他診療科や他施設への展開を進めることで、患者中心の医療の実現と医療DXのさらなる推進を目指します。



文責：名大病院 消化器外科 助教 鈴木 卓弥

### R7年度 臨床研修医の修了式、辞令交付式

令和8年3月16日（月）、令和6年度臨床研修医プログラム修了式を執り行い、研修医36名が2年間にわたる初期臨床研修を修了しました。式典では病院長より激励の言葉が贈られるとともに修了証が授与されました。研修医たちは当院で培った臨床経験や知識を礎に、今後それぞれの進路においてさらなる活躍が期待されます。



また、令和8年3月23日（月）には令和8年度初期研修医辞令授与式を開催し、4月より新たに35名の研修医が当院の研修プログラムに加わります。式では総合研修センター長より激励のメッセージとともに一人ひとりに辞令が授与され、新たな一歩を踏み出す研修医に向けて、実り多い研修生活への期待が寄せられました。

文責：総合研修センター長 村上 英樹

### 「外国人患者受入れ医療機関」として認証されました！／西部医療センター

増加傾向にある在住外国人および愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会の訪日外国人に対して、安全かつ質の高い医療を提供することを目的として、(一財)日本医療教育財団が提供する「外国人患者受入れ医療機関認証制度(JMIP)」を受審いたしました。



院内の掲示物や患者提供文書の多言語による診療案内、通訳タブレットの導入、異文化・宗教に配慮した対応など、病院一丸となって体制を整えた結果、令和7年11月に認証を受けました。

この認証は愛知県内で4件目、名古屋市立大学病院群では名古屋市立大学病院に続いて2件目となります。今後も、多様な医療需要に応える中核病院および外国人患者受入れ医療機関として、市大病院群で協力し合い、多文化共生社会に貢献してまいります。

文責：西部医療センター 経営課

### 名東キャンパス開設記念式典／医学部保健医療学科リハビリテーション学専攻

2026年3月28日、門出を祝うような晴天の中、名東キャンパス開設記念式典及び内覧会を開催しました。



記念式典では、市議員を始めとする多くのご来賓にご来臨賜り、大勢の方に見守られながらテープカットを執り行いました。理事長のご挨拶では、キャンパス開設にあたりご尽力いただいた関係者への謝意と「開学100周年に向けて、高齢福祉や医療のイメージを変えていく」決意を述べられました。

内覧会では、最新の教育研究機器の紹介や体験、みらい光生病院のリハビリテーション室見学などを通じて、リハビリテーションを身近に感じていただくとともに、医療への理解と関心を深めていただく機会となりました。

この新しく整備された名東キャンパスで、理学療法士・作業療法士を養成することを通じて、名古屋市の医療の発展に貢献してまいります。

文責：医学部保健医療学科 リハビリテーション学専攻 教授 藤田 ひとみ

広報誌：瑞 医 (ずいい)  
発行：〒467-8602

名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地  
TEL (052) 858-7116 FAX (052) 851-4801

URL <https://www.nagoya-cu.ac.jp/>

☒  
我こそは  
通信員!

広報誌「瑞医」へ最新の話題をお届けしてくださるサポーター大募集!  
「今、当講座ではこんな若手が頑張っています!」など広報委員会へ取り上げてほしい話題を教えてください。教職員・学生、身分は問いません。  
我こそは、という方は、E-Mail: [hpkouhou@sec.nagoya-cu.ac.jp](mailto:hpkouhou@sec.nagoya-cu.ac.jp)  
病院管理部経営課経営係 広報担当まで